第２回　国立大学法人琉球大学上原地区キャンパス
跡地利用推進協議会議事要旨

日時：令和５年５月３０日（火）１３：００～１４：００
場所：琉球大学医学部管理棟３階大会議室（現地＋ＷＥＢのハイブリット開催）
構成員：
（西原町）総務部　上野主幹（与那嶺　総務部部長代理出席）、宮平課長（呉屋　建設部長代理出席）
（西原町民代表）上原自治会　石原会長、棚原自治会　城間会長
（沖縄県）総務部　森田総務統括監（宮城　総務部長代理出席）、商工労働部　砂川産業雇用統括監（松永　商工労働部長代理出席）、保健医療部　新城保健衛生統括監（糸数　保健医療部長代理出席）
（沖縄総合事務局）経済産業部　滝本部長
（学識経験者）大城前琉球大学学長
（琉球大学）福治理事（上原キャンパス跡地利用担当）、大屋理事（キャンパス移転担当）、筒井医学部長、移転推進本部　市川事務部長

・委員の変更について
昨年度からの委員の変更及び出席委員について、資料１及び座席表に基づき、事務局から紹介があった。また、国立大学法人琉球大学上原地区キャンパス跡地利用推進協議会要項第５条４項における議長職務代行の指名について、事務局から説明があり、福治委員が指名された。

【議事】
（１）アドバイザー導入について
アドバイザー導入について、資料２に基づき、事務局から説明があった。

（２）アドバイザーによる調査報告等
アドバイザーによる調査報告等について、資料３、資料４に基づき、日本不動産研究所から説明があった。

（３）サウンディング調査の実施方針案
サウンディング調査の実施方針案について、資料５に基づき、日本不動産研究所から説明があった。

（４）今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、資料６に基づき、事務局から説明があった。

（５）その他

各委員と以下のとおり意見交換を行った。

（主な意見等）

〇委員

資料５のプレサウンディングの中身はどういった形で進めていて、どういった成果が上がってきているのか。

〇事務局

本サウンディングの前に、事業者の感触を掴む目的で実施した。プレサウンディングの内容については、次回協議会のサウンディング報告の際に併せて報告する。

〇委員

沖縄県では、慢性的に薬剤師が不足している。新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画の中で、総合的な薬剤師の養成・確保に取り組むこととしている。上原キャンパスの既存建物の活用ができれば、建物建設費の削減ができるのではないかと思われる。また、薬剤師の養成・確保は地域医療の向上への貢献、地域活性化への貢献、新たな産業の創出の可能性拡大などＳＤＧｓの目標達成に効果的である。上原キャンパス跡地利用の候補の一つとして検討していただきたい。

〇委員

県内ではその通りであるが、全国的には薬学部の定員充足状況が悪くなっており、文部科学省は全国的に薬学部の設置を抑制する方向にある。そのため、琉球大学単独では設置を申請するのが難しい状況。実施するかどうかはさておき、仮に実施するとなれば、文部科学省で薦めている、国公私を巻き込んだ連合やコンソーシアムを組み、県全体の連携学部を設立する方向にする必要があると思われる。そのため、上原キャンパス跡地単体の問題ではなく、県内の国公私の大学を含めた県全体として、薬剤師の供給をどうしてくのか議論する必要がある。

〇委員

仮に薬学部が設置となった場合は、上原キャンパス跡地が候補となるのは承知しているが、問題は運営面での資金繰りとなるだろう。従来の運営交付金等のみでは運営が対応出来ないため、そういった運営資金における枠組みの再検討が必要である。

〇委員

以前、商工労働部長から、跡地利用を産業振興拠点にできないかと要望を出してお

り、現在検討を続けている。資料 6 に記載されている令和 7 年度以降の都市計画変更等について、例えば工業用地とする場合、都市計画の用途変更規制を解除しなければならないが、前倒し検討は可能か。

○事務局

状況次第では可能と思われる。資料 6 は、公共団体と民間事業者がどのように土地利用をするのか決めた後で、西原町と協議のもと、都市計画変更が必要となる場合のスケジュール案となっている。そのため、土地利用条件が早めに決まれば西原町と相談し、前倒しは検討可能であると思われる。

○委員

西原町のマスタープランでは、上原キャンパス跡地は文教エリアに位置付けられている。現在、マスタープランの見直しを図っているところであるので、新たな利活用方針があれば、早めに西原町へ相談していただきたい。

○委員

仮に、現状の文教エリアから工業系のエリアに変更を希望する場合、ハードルは高いか。

○委員

議会承認等、ハードルは高いと思われる。

○委員

産業振興拠点として跡地を活用して欲しい旨、お伝えしているが、お金や時間の制約がある中で出来る事を行うことが現実的である。なお、上原キャンパス移転に関してもスムーズに進める事も必要である事から、全体的な観点をもって進めていただきたい。

○委員

移転後のエリアと上原キャンパス跡地がある程度の連携が取れることは、土地の価値を上げ、産業など様々な取り組みを良い方向へ持って行く一つの条件ではないかと思われる。様々な申し出や依頼を受けた際は情報提供しつつ、土地の利用が素晴らしいものになるよう取り組んでいきたい。

○事務局

次回の協議会は 8 月頃を予定している。